



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	要介護高齢者の療養の場の移動に関するコホート研究(はしがき)
Author(s)	樋口, 京子
Report No.	平成14年度-平成16年度年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2) 課題番号14572214) 研究成果報告書
Issue Date	2004
Type	研究報告書
Version	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/731

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

1. 研究目的

1) 目的

本研究の目的は、介護保険前からのコホート集団を追跡し、地域に暮らす高齢者に要介護状態が出現し死亡に至る過程で、療養の場である「居所」をどのように移動しているのかを縦断研究で明らかにすることである。「居所の移動」（自宅から入院・入所、異動、死亡も含めて）の年次変化と関連する要因を、高齢者本人および介護者の心理社会経済的側面を含め総合的に分析する。

2) 研究の背景

我々は、平成 12 年に 2 月に、『介護予防』や『健康寿命の延長』に必要な『要介護状態をもたらす危険因子』を明らかにする目的で、愛知県下の 2 自治体の全高齢者（約 7000 人）を対象に、生物・心理・社会（bio-psycho-social）モデルに基づく総合的高齢者評価に基づく調査を行った。また、介護保険の要介護認定を受けた高齢者約 700 人と介護者を対象に独自に作成した訪問調査と介護者調査を実施し、心理社会経済的側面を含むデータを介護保険前後で比較検討した。

上記の過程で、要介護認定を受けた 700 人のうち、介護認定 1 年後の結果では、約 300 人弱が入院、入所、死亡の理由で療養により「居所」を移動していることがわかった。療養による居所の移動に関する文献をレビューしたところ、わが国において実証的な研究がほとんどないという見解を得た。

そこで、我々が介護保険前から対象としてきた 1 自治体を取り上げ、療養の場である居所の移動に関するコホート縦断研究を行い、総合的高齢者評価に基づく知見を得ることの意義は大きいと考え取り組んだ。

3) 本研究の特色

- ① 総合的高齢者評価として収集した疾病や健康行動や、介護保険関連行政データだけでなく、本人および介護者の社会・心理・経済的要因や環境要因に着目したデータも加えることで、総合的に要因分析を行うことが可能であること
- ② 自治体との協力体制をとりながら、介護保険前からのコホート集団を追跡する縦断研究により、質の高い情報を得られることや成果について自治体への直接還元も意図していること。

4) 本研究の意義と期待される成果

わが国において、地域における要介護高齢者の療養の場の移動に関する縦断的な実証研究は、まだほとんどない。本研究では、2000 年 2 月に在宅にいた一般高齢者約 3600 人と約 450 人の要介護認定を受けた高齢者のコホート集団が準備され、縦断研究が可能である。本研究の意義と期待される成果として、次の点をあげた。

- ① 要介護度と居所の変化の自然暦を明らかにできること
- ② 在宅高齢者が、一旦入所・入院した後も追跡できること
- ③ 要介護度と居所の変化のリスクを、心理社会経済的因子を含めて検討できること
- ④ 量的な手法だけではつかめない要因については質的な方法を組み合わせて検討する予定であること